

栃木県教員育成指標(教諭)

とちぎの求める教師像

～自信と誇りをもって子どもたちと向き合える教師～

人間性豊かで信頼される教師
幅広い視野と確かな指導力をもった教師
教育的愛情と使命感をもった教師

| | 採用時の姿 | ステージⅠ (おおむね1年目～5年目) | ステージⅡ (おおむね6年目～10年目) | ステージⅢ (おおむね11年目～19年目) | ステージⅣ (おおむね20年目～) |
|------|---|---|---|--|--|
| 全体指標 | 教員としての基礎・基本を理解するとともに、教職生活全体を通して自律的に学び続けようとする強い意志をもっている。 | 教育活動に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、同僚からの助言等を得ながら職務を遂行している。 | 専門的な知識・技能や、新たな教育課題に対応する実践的指導力を身に付けるとともに、同僚と協働しながら職務を遂行している。 | 学校の課題解決を目指し、組織を活性化させたり企画力・実践力を発揮したりするなど、ミドルリーダーとして学校運営に積極的に参画している。 | 教職生活を通して培った経験のもとリーダーシップを発揮し、学校の教育目標の達成を目指して積極的に学校経営を支え続けている。 |

○学習指導に関する指標

| | 採用時の姿 | ステージⅠ (おおむね1年目～5年目) | ステージⅡ (おおむね6年目～10年目) | ステージⅢ (おおむね11年目～19年目) | ステージⅣ (おおむね20年目～) | |
|--------------------------|---|--|---|--|---|---|
| 学習指導全般 | 学習指導の基礎・基本を理解するとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志をもっている。 | 学習指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態をとらえ、同僚からの助言等を得ながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、指導の工夫・改善を図っている。 | 教科等の専門的知識を身に付けるとともに、指導資料の活用や研修会への参加、同僚との情報交換等を通して、学習指導の工夫・改善を図りながら、学習者中心の授業を創造している。 | 学習指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践においてミドルリーダーとしての役割を果たしている。 | 若手・中堅教員等に学習指導の範を示すとともに、課題解決に向けて、教育課程の見直しや授業改善等にリーダーシップを発揮している。 | |
| 指導計画等の立案・実施 | 教育目標の実現に向けて、指導計画に基づいて学習指導を行うことの大切さを理解している。 | 学習指導要領や年間指導計画等に基づき、指導目標や評価計画、指導内容等を適切に設定して学習指導案を作成している。 | 学習指導上の課題を把握し、同僚と情報交換を行いながら指導計画の工夫・改善を図っている。 | 学年間の接続や教科横断的な視点などから、学校全体を視野に入れた指導計画の工夫・改善を図っている。 | 学校の教育目標の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの改善・充実にリーダーシップを発揮している。 | |
| 指導方法・ 教材研究の 工夫 | 授業の基本技術 | 授業展開の仕方や教材研究の進め方を理解している。 | 話し方、板書の仕方、発問の仕方等の基本技術を身に付けるとともに、児童生徒の理解度や反応などを的確に捉え、同僚の助言等を得ながら、指導方法の工夫・改善に努めている。 | 研修会への参加や同僚との情報交換等を通して、授業力の向上に積極的に取り組んでいる。 | 児童生徒の実態を踏まえ、教科や学年を越えて同僚と協働しながら、授業力の向上に積極的に取り組んでいる。 | 教職生活を通して培った授業力をもとに同僚への支援・助言を行うなど、学校全体の授業力の向上に積極的に取り組んでいる。 |
| | 教材研究 | | 授業のねらいを明確にするとともに、児童生徒の興味関心を引き出す教材・教具の工夫など、児童生徒の理解を深めるための指導の工夫を行っている。 | 研修会への参加や同僚との情報交換等を通して、児童生徒の理解を深めるための教材の開発や指導の工夫に取り組んでいる。 | 教科横断的な視点を踏まえ、教科や学年を越えて同僚と協働しながら、教材の開発や内容配列の工夫に取り組んでいる。 | 教材の選定や指導方法、指導形態等について研究を続けるとともに、同僚への支援・助言を積極的に行っている。 |
| 評価の工夫 | 指導と評価の一体化を進める大切さを理解している。 | 児童生徒の学習状況を確実に把握し指導に生かすことができるよう、同僚からの助言等を得ながら評価方法の工夫・改善に努めている。 | 児童生徒の学習状況をより多面的に把握し指導に生かすことができるよう、同僚と協働しながら評価方法の工夫・改善に努めている。 | 学習指導上の課題を踏まえ、改善に向けた評価方法等について同僚と協働しながら組織的に研究、実践している。 | 指導と評価が一体となった評価方法等について研究を続けるとともに、同僚への支援・助言を行っている。 | |
| 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援、組織的な対応の必要性について理解している。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援についての基礎的知識を身に付け、同僚からの助言等を得ながら指導内容や指導方法の工夫を行っている。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援について深く理解し、同僚と協働しながら指導内容や指導方法の工夫を行っている。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援についての学校の課題を把握し、解決に向けた組織的対応の中心的役割を担っている。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援について、組織的対応の中心的役割を担うとともに、同僚への適切な支援・助言を行っている。 | |
| ICTや情報・ 教育データの 利活用 | ICTの活用 | ICTや情報・教育データの活用の意義、授業等における活用方法を理解している。 | ICT機器の授業における活用方法を理解し、同僚からの助言等を得ながら、授業実践や情報モラルを含む情報活用能力の育成を目指した実践に努めている。 | 児童生徒の学びの質の向上に向け、同僚と協働しながら、ICT機器を効果的に活用した授業実践や情報モラルを含む情報活用能力の育成を目指した実践に取り組んでいる。 | 新たな教育課題を理解し、ICTを活用した学習指導について、同僚への支援・助言を行うとともに、校内における教育の情報化に向けた体制づくりにリーダーシップを発揮している。 | |
| | 情報・教育データの利活用 | | 児童生徒の学習改善を図るため、同僚からの助言等を得ながら、教育データを適切に活用し、学びの振り返りやきめ細かい指導・支援に生かしている。 | 教育データを適切に活用し、児童生徒の学習改善を図るとともに、同僚と協働しながら自身の指導方法の工夫・改善に努めている。 | 教育データの適切な管理や活用方法について、同僚等への支援・助言を行うとともに、同僚等に対して適切な教育データの提供に努めている。 | |

○児童・生徒指導に関する指標

| | 採用時の姿 | ステージⅠ (おおむね1年目～5年目) | ステージⅡ (おおむね6年目～10年目) | ステージⅢ (おおむね11年目～19年目) | ステージⅣ (おおむね20年目～) | |
|---------------|--|---|---|--|---|---|
| 児童・生徒指導全般 | 児童・生徒指導の基礎・基本を理解するとともに、指導力の向上を目指して学び続けようとする強い意志をもっている。 | 児童・生徒指導の基礎・基本を身に付けるとともに、児童生徒の実態をとらえ、同僚からの助言等を得ながら、指導の工夫・改善を図っている。 | 指導資料の活用や研修会への参加、同僚との情報交換等を通して、指導の工夫・改善を図っている。 | 児童・生徒指導上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践において、ミドルリーダーとしての役割を果たしている。 | 若手・中堅教員等に児童・生徒指導の範を示すとともに、課題解決に向け、指導計画の見直しや関係機関等との連携等にリーダーシップを発揮している。 | |
| 児童生徒との信頼関係の構築 | 児童生徒理解 | 児童・生徒指導における児童生徒理解と信頼関係づくりの大切さを理解している。 | 日常的な関わりや同僚からの情報を得ながら、児童生徒の性格や心身の状況等の把握に努めている。 | 同僚と積極的に情報交換を行うなどして、児童生徒の多面的・多角的な理解に努めている。 | 児童生徒一人一人に関する様々な情報を学年や学校全体で共有できるよう、教職員間の連絡・調整に当たっている。 | 児童生徒理解に関する専門的な知識を身に付け、同僚への支援・助言を行っている。 |
| | 信頼関係づくり・教育相談 | | カウンセリングマインドをもって児童生徒一人一人に共感的、受容的に接し、信頼関係の構築に努めている。 | 研修等を通して教育相談の基本を学び、児童生徒の相談を受け止め、適切に対応することにより、信頼関係を築いている。 | 児童生徒の悩み等を的確に把握し、問題解決に向けて同僚と協働しながら対応している。 | 児童生徒への教員の関わり方を観察し、教育相談の活用や、信頼関係づくりの具体的な方策等について、支援・助言を行っている。 |

| | | | | | | |
|------------------------|----------------|---|--|--|--|--|
| 児童生徒への指導・援助 | 発達支持的児童・生徒指導 | 児童・生徒指導の意義とともに、いじめ、不登校等への対応の基本について理解している。 | 同僚からの助言等を得ながら、児童生徒の良さや可能性を伸ばそうと努めている。 | 集団指導や個別指導を通して、自己指導能力を育む児童・生徒指導に同僚と協働しながら取り組んでいる。 | 児童生徒の自己指導能力を育む方を積極的に提案するとともに、学年や部を越えて実践できるよう連絡・調整に努めている。 | 自己指導能力を育む児童・生徒指導があらゆる場面で展開されるよう、指導法や指導体制の充実にリーダーシップを発揮している。 |
| | 問題行動等への対応 | | 組織的な対応の重要性を理解するとともに、日頃から児童生徒の様子を観察し、問題行動等の未然防止、早期発見、迅速な対応に努めている。 | 事例研究等を通して問題行動等への対応について理解を深めるとともに、問題行動等に対して同僚と協働しながら対応している。 | 問題行動等の背景、原因を的確に把握し、解決のための方策を考えるとともに、関係職員と連携しながら組織的に対応している。 | 家庭や専門機関等と連携・協働した問題行動等への対応方法を身に付け、学校全体の組織体制の充実にリーダーシップを発揮している。 |
| | 特別活動、進路指導等への取組 | | 特別活動や進路指導等の意義を理解し、同僚からの助言等を得ながら指導している。 | キャリア教育の視点をもち、同僚と協働しながら、個に応じた適切な指導を行っている。 | 学校の特色を生かした効果的な特別活動、進路指導等の在り方について具体策を考え、同僚と協働しながら組織的に取り組んでいる。 | 地域・社会や産業界と連携・協働し、学校全体で効果的な特別活動、進路指導等が組織的に実施されるよう、リーダーシップを発揮している。 |
| 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応 | | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援、組織的な対応の必要性について理解している。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援についての基礎的知識を身に付け、同僚からの助言等を得ながら指導・支援を行っている。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援について深く理解し、同僚と協働しながら指導・支援を行っている。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援についての学校の課題を把握し、解決に向けた組織的対応の中心的役割を担っている。 | 児童生徒の実態に応じた配慮や支援について、組織的対応の中心的役割を担うとともに、同僚への適切な支援・助言を行っている。 |

○参画・経営に関する指標

| | 採用時の姿 | ステージⅠ (おおむね1年目～5年目) | ステージⅡ (おおむね6年目～10年目) | ステージⅢ (おおむね11年目～19年目) | ステージⅣ (おおむね20年目～) |
|------------------|---------------------------------------|--|---|--|---|
| 参画・経営全般 | 組織の一員として自分の役割を果たそうとする強い意志をもっている。 | 「報告・連絡・相談」を確実にを行うとともに、同僚からの助言等を得ながら、校務分掌の遂行に当たっている。 | 社会の変化に目を向け、広い視野をもつとともに、同僚と協働しながら校務に組織的に取り組んでいる。 | 学校経営上の課題解決に向けた対策を積極的に提案するとともに、学年や部、教職員間の連絡・調整及び実践において、ミドルリーダーとしての役割を果たしている。 | リーダーシップを発揮しながら同僚の意欲の向上や組織力の強化を図るとともに、学校の教育目標の達成に向けて積極的に学校経営に参画している。 |
| 校務分掌への取組 | 校務の一端を担い、組織の一員として働くことの大切さを理解している。 | 担当する校務分掌について、同僚からの助言等を得ながら、迅速・正確に処理している。 | 担当する校務分掌について、同僚と協働しながら、工夫・改善しながら取り組んでいる。 | 校務分掌への取組を通して学校の課題を把握し、他の校務分掌との連携を図りながら、改善に努めている。 | 学校の教育目標の達成に向けて校務分掌に取り組むとともに、組織間の連携が図られるよう、同僚への支援・助言に積極的に取り組んでいる。 |
| ICTや情報・教育データの利活用 | ICTや情報・教育データの活用意義、校務等における活用方法を理解している。 | ICTや教育データに関する基本的な知識を身に付け、同僚からの助言等を得ながら、業務改善を意識して、校務にICTを活用している。 | ICTを効果的に活用し、業務改善を踏まえて、同僚と協働しながら、校務の効率化に取り組んでいる。 | 校務においてICTを有効に活用するための同僚への支援・助言を行うとともに、校内の教育の情報化に向け、ICTを活用した業務改善への取組にリーダーシップを発揮している。 | |
| 学級・学年経営・参画 | 学級・学年経営の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。 | 学年主任や他の担任の助言等を得ながら、学びに向かう集団に高めていくための学業指導の充実に取り組んでいる。 | 担当する学級及び学年の現状を把握し、同僚と協働しながら、学級・学年経営に参画している。 | 学校の教育目標等に基づき、同僚と協働しながら、よりよい学級経営・学年経営を目指して、工夫・改善に取り組んでいる。 | 学年全体の学級経営の現状を把握し、学校の教育目標等の実現に向けて、リーダーシップを発揮しながら、組織的な学年経営に取り組んでいる。 |
| 学校経営への参画 | 組織の一員として、組織的に対応することの大切さを理解している。 | 「報告・連絡・相談」を確実にしながら、校内組織での自らの役割を果たしている。 | 学校経営方針を理解し、同僚と協働しながら、校務に組織的に取り組んでいる。 | 学校組織マネジメント、カリキュラム・マネジメントについて理解し、学校の教育目標の達成、学校経営上の課題の解決のために積極的に取り組んでいる。 | 学校の教育目標の達成や学校経営上の課題の解決に向けた組織体制づくりにリーダーシップを発揮しているとともに、同僚への支援・助言を積極的に行っている。 |
| 日常の教育活動における安全確保 | 全ての教育活動の基盤となる安全確保の重要性について理解している。 | 同僚からの助言等を得ながら、教育環境、教育活動の安全確保に努めている。 | 学校の安全計画を理解し、同僚と協働しながら確実な実施に努めている。 | 安全担当者等と協働しながら、事故の未然防止に努めるとともに、安全上の課題の把握に努め、その解消に速やかに取り組んでいる。 | 日頃より事故の未然防止に努めるとともに、事故発生を想定した具体的な対応について、同僚と十分に共通理解を図り、支援・助言を行っている。 |
| 家庭・地域・関係機関等との連携 | 家庭・地域・関係機関等と連携・協働することの大切さを理解している。 | 学習指導、児童・生徒指導をはじめとする校務全般において、同僚からの助言等を得ながら、家庭や関係機関等との連携・協働に努めている。 | 学校内外の関係者との情報交換を積極的に行い、家庭や関係機関等との連携・協働の促進に努めている。 | 家庭や関係機関等との連携・協働がより効果的なものとなるよう、学校内外の関係者との連絡・調整を積極的に行っている。 | 家庭や関係機関等への情報提供や連携・協働の方法について、同僚への支援・助言に努めるとともに、校内の組織体制づくりにリーダーシップを発揮している。 |

○意欲・態度に関する指標

| | | 採用時の姿 | ステージⅠ～ステージⅣ |
|-----------------|---------|----------------------------------|--------------------------------|
| 教育的愛情・熱意 | 教育的愛情 | 教育的愛情と使命感をもった教師になるという強い意志をもっている。 | 児童生徒に教育的愛情をもって接している。 |
| | 信念・熱意 | | 正しい信念のもと、熱意と使命感をもって仕事に取り組んでいる。 |
| | 人権尊重の精神 | | 人権尊重の観点を重視し教育活動を行っている。 |
| 誠実・品位、公正、法令の遵守等 | 誠実・品位 | 礼儀正しい態度で誠実に仕事に取り組んでいる。 | 礼儀正しい態度で誠実に仕事に取り組んでいる。 |
| | 公正 | | 偏りがない見方・考え方で公正に勤務している。 |
| | 法令の遵守 | | 職務・勤務の在り方を自覚し、厳正に勤務している。 |
| 責任感・寛容性・協調性等 | 責任感 | 責任をもって職務を遂行している。 | 責任をもって職務を遂行している。 |
| | 寛容性 | | 異なる意見・立場を尊重し、職務にあたっている。 |
| | 協調性 | | 同僚と協調して職務にあたっている。 |
| 研修に対する意欲 | | 自己の能力向上のために、研究と修養に取り組んでいる。 | |